

平城京左京三条七坊・興福寺旧境内 (登大路瓦窯跡群) 発掘調査 現地説明会資料

1. はじめに

平成29年5月から、奈良市登大路町の奈良県婦人会館・奈良県消費生活センター跡地において発掘調査を実施しています。この地は平城京左京三条七坊にあたり、興福寺が造営されて以降、明治初年までの長きにわたり、興福寺の境内でした。

今回の調査では、興福寺の瓦を焼成した瓦窯や、その後に造営された興福寺子院にかかわる遺構を検出しました。

2. 調査の成果

現在調査を進めている遺構面では、瓦窯を9基検出しました。いずれも有床式平窯と呼ばれるものです。有床式平窯は、焚口、燃焼室、焼成室で構成され、火回りをよくするために焼成室に畦状の高まり(分焰床)を複数設けるのが特徴的です。この畦状の高まりの上に粘土のままの瓦を立て並べて焼成したと考えられます。検出した各瓦窯の重複関係から、大きく3時期にわかれて、2~4基の瓦窯が東西方向に列をなして同時に操業し、北から南へ場所をかえたと考えられます。

瓦窯の南側では、瓦窯の覆屋に伴う柱穴列や、瓦窯周辺の排水を担っていた溝、瓦窯前面に広がる谷状地形を検出しました。谷状地形からは、焼土層や灰層が北から南に向かって傾斜する堆積状況が認められ、焼けひずみや複数枚が溶着した瓦等を投棄していました。この堆積は、瓦窯の操業による炭化材や瓦の焼成不良品、破損した窯体などを廃棄した「灰原」です。

すでに調査を終えた瓦窯(窯A、B、D)については、出土遺物から12世紀後半に操業していたと推定されます。この時期には、平氏と南都寺社勢力との対立によって生じた南都焼討〔治承4年12月28日(1181年1月15日)〕がありました。この焼討によって、興福寺や東大寺の主要伽藍のほとんどが焼失してしまいます。したがって、検出した瓦窯のうち少なくとも南側の瓦窯は、南都焼討ののち、興福寺再建の際に瓦を焼成・供給した瓦窯群であると推定することができます。

また、調査地では、瓦窯の操業が終わったのち、盛土による大規模な造成工事がおこなわれ、境内地として整備された状況が明らかになりました。調査では、「宝徳院」と呼ばれる子院の北辺築地とその北側を東西に走る道路遺構を検出しました。近世に描かれた『奈良町絵図』(4)にも、興福寺主要伽藍の北方にあたる調査地周辺に、多くの子院や道路が配置されている状況を読み取ることができます。

3. まとめ

今回の発掘調査では、調査地における興福寺の土地利用の変遷が明らかになりました。とりわけ、密集して築かれた瓦窯群やそれに伴う大量の瓦、その後の大規模な造成工事から、当時の興福寺が誇る権力の大きさを垣間見ることができます。



瓦窯遺構面全景(南東から)

平城京左京三条七坊・興福寺旧境内
(登大路瓦窯跡群)
発掘調査 現地説明会資料

2017年11月11日

奈良県立橿原考古学研究所
〒634-0065 奈良県橿原市畝傍町1番地

Tel: 0744-24-1101 URL: <http://www.kashikoken.jp/>
(ホームページでも現地説明会の案内・説明内容をご覧いただけます)



イワミン
奈良県立橿原考古学研究所
マスコットキャラクター

2017年11月11日
奈良県立橿原考古学研究所



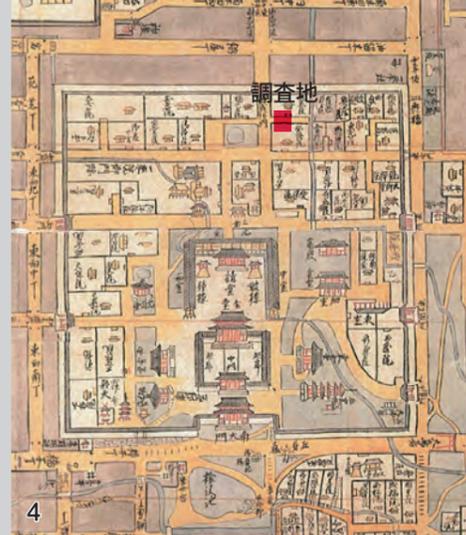
▲ 瓦窯遺構面の調査区平面写真 (S=1/150)
▼ 調査地遠景 (北から) 調査地周辺には公共の施設が林立しています。一帯は明治初年の廃仏毀釈まで興福寺の境内でした。



2



▲ 興福寺子院遺構面の全景写真 (北東から)
瓦窯の上層の遺構面で、興福寺子院である宝徳院の北辺築地と東西道路を検出しました。瓦窯の操業が停止した後の鎌倉時代後期に、子院を造営するための盛土による大規模な造成工事がおこなわれました。



▲ 『奈良町絵図』(天理大学附属図書館所蔵)
江戸時代における興福寺境内の主要伽藍や子院群、境内道路などの配置が明瞭に描かれています。



▲ 調査位置図 (S=1/10,000、『大和都市計画地図』を使用)
左図と比較すると、現代まで地割が踏襲されていることがわかります。



▲ 窯B(南から) 焚口の天井部や、燃焼室と焼成室の間に設けられた隔壁がよ(残っています。背後にみえるのは窯Eです。
▼ 窯Bの変遷 (西から、左→右の順に焼成の段階が新しくなる) 各瓦窯には複数回の造り替えがみられます。床面や壁面の軽微な補修から、火回りをよくするための大規模な改修に至るまで、瓦の焼成を担った工人たちの工夫と苦勞がうかがえます。



▲ 窯D(南から) 有床式平窯は、焚口、燃焼室、焼成室で構成されます。各窯で細部の構造が異なり、背後にみえる窯Fと比較して、燃焼室と焼成室の間に大きな段差がありません。分焰床の本数も異なり、石を多く使用しています。



8 段階①



9 段階②(床面が上昇し、焚口が内部に移動。)



10 段階③(粘土の壁面を追加し、燃焼室が縮小。)